



それらのことによって、次のようなことが起ってくる。

- ・友達とのトラブルが増え、学級生活が荒れてくる。
- ・学級集会活動に子どもの思いが生かされない。
- ・子どもや保護者の教師に対する不信感が増す。

### 3 学年末の学級集会活動を成功させる方法

#### (1) 余裕を持った学級集会活動の計画作成期間

中学年の学級集会の実施には、集会の提案から学級会での話し合い、準備、そして、集会本番という経過をふまえると、3～5週間の計画が必要となる。この幅の違いは集会の内容によって、学級会前の提案準備にかかる時間や学級会後の準備にかかる時間に差があるからである。さらに、学期末の他の取り組みと平行して学級集会活動を進めていくためには、その時間も考慮した計画が必要となる。

#### (2) どんな集会をするか？

学級集会のとりかかりは、3学期の係活動の組織作りから始まる。学級会係や集会係などが提案者となり、最後の学級集会の原案を立てるようにする。まず、どのような集会をしたいか、係の子どもたちが全員にアンケートをとる。アンケートの結果とそれまでの集会の経験、学級目標や最後の集会としてのねらいなどをもとに係は教師と話し合い、集会の構想を練る。

それまでの集会の経験が文化的なものが多かった場合には、スポーツ的な集会「3年〇組、学級オリンピック」が選ばれるかもしれない。逆にスポーツ的な集会の経験がある場合には、音楽的な集会「班対抗歌合戦」「4年〇組演奏会」や、「3年〇組、思い出劇集会」「係からの出し物集会」「10歳半成人式」など、子どもたちの発意や学級の実態に応じて、どのような集会をするかを決定する。

どの集会でも共通していることは、ア) クラスの全員が準備から本番まで楽しく参加できる、イ) 子どもたちの創意工夫が生かされる、ウ) 集会に向けた準備でみんなが仕事を分担し、協力しながら活動できる、ということがあげられる。つまり、どの集会が選ばれても、子どもたちはみんなで集会をやり遂げたことに満足できるようなものでなければならない。

#### (3) 集会に向けた話し合い活動

何の集会をするかが決まったところから、集会の準備が始まる。計画委員会では、提案者と計画係、そして教師とで、集会までにみんなで話し合う事柄について明らかにする。それらの中から、集会の内容について一番大切なことを学級会で話し合うようにする。それ以外のことは、朝の会や帰りの会で少しずつ話し合っていく。

中学年の子どもたちは、原案や話し合いの資料をプリントで配布して話し合いを進めていくことは困難である。そこで、一番確実な方法は、模造紙で提案し、決まったことをそれに書き込み、そしてすべてが見えるように掲示することである。そうすることで、いつでも子どもたちは、内容を確認することができ、忘れることもない。

#### (4) 集会に向けた準備

必要なことを話し合い、決定したあとは、集会の準備に入っていく。グループに分かれて発表の練習や準備を開始する。この過程がとても大切である。グループに分かれて作業をするうちに、子どもたちは考え方の違いだけではなく、集中度や友達関係などにより、グループ内でけんかになることが考えられる。また、話し合いの時に自分の考えを進んで出せない子や仕事の進め方が遅い子などもいるであろう。

そこで、教師は子どもたち一人一人がよさを発揮しながら、友達と協力して活動できるように支援していく必要がある。子どもたちの活動を放任するのではなく、教師は小集団活動を見守り、必要に応じて適切な支援や指導を行うようにする。

具体的には、準備のグループに対して、それぞれに準備のための活動計画を作成させる。「どのような活動をするのか?」「仕事分担は?」、という2点が適切なものなのかを点検する。

また、計画後の実際の準備では、子どもたちの活動計画(計画案)にそって、準備が進んでいるかを把握した上で、適切な支援を行うようにする。

#### (5) 集会本番での支援

集会本番では、みんなで決めた集会のめあてと約束に沿って、集会を進行していく。集会の途中で失敗があっても、子どもたちはみんなで気持ちを一つにして取り組んできたことを達成できたことに喜びを感じ、学級に対する所属感を味わうことができるであろう。この経験は、それから先の学級生活にも生かされるし、高学年での児童会活動にも発展していくであろう。

---

## 2 旬の情報～学級文集をつくる

福岡市立有田小学校 野口博明

---

3学期になると1年間のまとめとして、学級文集を作成する学級担任は少なくない。学級文集には、大きく分けて3つのタイプがある。一つ目は、自分が書いたものをファイルする「個人作品型」。二つ目は、テーマに沿って作文を書き、それを全員分印刷したものを綴じ合わせる「全員共通型」。そして三つ目は、先の二つを組み合わせた「ミックス型」である。

「個人作品型」の特徴は、一人一人が書いたものをファイルしていくものである。そのメリットとしては、1年間の自分の学習や活動の記録をひとまとめにできるということと、自分の好みに合わせて構成ができるということであろう。しかし、デメリットは、1年間の学習や活動の記録の保管の仕方と大量の資料から文集に載せるものをどのように選択するかということである。また、一人一人の内容が違うため、個に応じた教師の支援が大変になることも忘れてはいけない。

「全員共通型」の特徴は、テーマを決めて作文を人数分印刷し、それを製本するものである。このメリットは、子どもたちの作文がそろえば短時間で文集が仕上がりが、クラスメート全員の作文を見ることができることである。デメリットは、自分だけの記録だけではなく、1年間の学習や活動の記録とはいえないということであろう。

「ミックス型」は、文集の構成が、「個人のページ」と「全員共通のページ」を併せたものである。当然、それは、それぞれの長所を生かしたものとなるので、この「ミックス型」が一番理想的なものであると考える。

先に文集のタイプを説明したが、ここでは、「個人のページ」と「全員共通のページ」を併せた「ミックス型」で話を進めていく。

#### (1) 文集完成までの見通し

文集は、学年度末に完成するものであるが、その取りかかりは年度初めに行うものである。それは、1年間の記録をまとめる文集であるためには、年度初めからの記録も必要となるからである。学年研修会で、年度初めに年間行事計画を立てるが、その際に、学級文集のことも柱の一つとして検討しておく、学期末、文集作りに取り組む際に、あわてず計画的に進めることができるであろう。

#### (2) 学級文集の構成

学級文集は、1年間の自分の学習や活動の記録をファイルする「個人のページ」と、個人のプロフィールや作文を印刷・製本する「全員共通のページ」で構成される。

「個人のページ」は、学活関連の資料、教科のプリント、ノートの一部、図工の作品などである。子どもたちが書いたプリントを4月から取りためておいたものや、年度末にノートの一部を切り取ったものなどを集めて、それを綴じていく。

「全員共通のページ」は、3学期に入って、新聞係が提案した「個人プロフィール」の形式に沿って、内容を書いたものや、国語の学習で書いた作文などを印刷し、全員分を綴じていく。

それらを併せると、70～100ページ前後になる。製本にはホッチキスを使わず、用紙にパンチで穴を開け、紙ファイルに綴じていく方法をとる。こちらの方が、作業が進めやすく、製本の手間も省くことができる。

#### (3) 教科との関連

「個人のページ」は、基本的に、1年間の学習や特活の記録になる。

- 国語…ある単元の学習プリント。
- 社会科…学習新聞、社会科見学のしおり。
- 算数…100マス計算やミニテスト。
- 理科…植物の観察記録。
- 音楽…リコーダー練習ノートの一部。
- 図工…クロッキーの作品。
- 体育…単元の計画表と活動の記録。
- 道徳…学習プリント。

○ 特 活…学級会の個人ノートや係活動でつくったもの。

なお、間紙は、総合学習のパソコンの時間に、パワーポイントソフトを使い、文字や図の挿入、背景の装飾などを学習した後、一人一人自分の間紙を印刷したものをを使うようにした。子どもたちは、パソコンで、教科ごとに間紙を作ることを楽しみながら活動した。

#### (4) 作成の手順

「全員共通のページ」は、印刷のため、子どもたちの原稿が集まってから教師が行うようにする。一方の「個人のページ」は、子どもが一人ずつ自分で行うようにする。私の経験上、3年生以上だと手順をわかりやすく説明すれば、一人一人で作集作りの作業を進めることは十分可能である。

私がよく行うのは、ミニ作文やクロッキー、写真などを A4 サイズの紙を台紙とし、それからはみ出さないように2つ折り、3つ折りを教え、パンチで穴を開け、A4の紙ファイルにとじていく方法である。

担任が取りためていた子どもたちの作品を1種類ずつ返し、それをA4の紙に丁寧にはっていく。それを繰り返すことで個人のページができあがる。B4のプリントの場合は、紙を横にしてA4の台紙に貼り、3つ折りにするときれいに収まる。

初めのうちは、A4サイズの紙を台紙として、資料を張るところを教師が実際にやって見せながら、子どもたちに手順を一つずつ覚えさせていく。初めの数枚を生活班で確かめながら進めていくことで、子どもたちは正しい手順を覚えることができるであろう。

そうやって、一通りそろったところでファイルからすべてを取り外す。そして、内容で分類し、すべてを並べ直した上で間紙を入れながら、もう一度ファイルにとじていく。これで「個人のページ」が完成する。

「個人のページ」を作る時間は、裁量の時間と朝の会の後、テストの後などの空き時間を使って、少しずつ進めるようにする。3年生の場合は、ゆとりをもって1月末から取りかかり、少しずつ作業を進めるようにしたが、3月上旬には、全員が完成した。

さらに、国語で書いた作文と宿題で書いた係提案のプロフィールを印刷し、全員に配布することで、「全員共通のページ」ができあがる。この2種類をファイルにとじ、表紙を丁寧に飾ることで学級文集が完成する。

#### (5) 文集が完成して

文集を開けてみると、まず、クラス全員の作文やプロフィールがある。間紙をめくると、「個人のページ」がそこから始まる。自分の学習や活動の記録がきれいに分類されて、しかも、たっぷり納められている。

子どもたちの表情は、文集を2ヶ月間かけて少しずつ作り上げたことに対する満足感で満ちあふれていた。文集を開くたびに、このクラスで過ごした1年間の記憶がよみがえってくるであろう。

---

### 3 メルマガ編集部からのお知らせ

---

#### ◆次号の予告◆◇◆

第55号は3月中旬ごろ発行予定です。  
次号は、集会活動の原案についてまとめてみます。

#### ◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は216名です。どんどん読者が増えてきています。嬉しい限りです。これまで以上に内容を充実させていく必要を感じています。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

#### ◆内容の充実について◆◇◆

このメールマガジンでは、読者のみなさんのニーズに応える紙面作りに取り組んでいこうと思っています。こんな内容について書いて欲しい。こういう情報が欲しい、ということをお知らせください。

先日、学習指導要領案が出されました。これから少しずつ新しい特別活動がどうなるのかについても、明らかになっていくのではないかと思います。そのあたりについても可能な限り書いていこうと思います。

#### ◆実践投稿のお願い◆◇◆

読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。特活の実践を広げ、共有していきましょう。

今回、福岡の野口先生から旬の情報をいただきました。このように、読者の皆さんの実践を紹介し合いませんか。ぜひ、実践を送ってください。

3月は、学級づくりのまとめの時期でもあります。担任としてどのような作戦を練って、それぞれの学年でどのように学年末を締めくくるのか。目の前の子どもたちをどのようにして次の学年に送り出すのか、その実践について情報交換できたらと思います。先生方が取り組んでおられる実践を紹介してください。

本メールマガジンでは、今後、以下のようなことについての情報を交流し合いたいと考えています。どんな小さな事でもけっこうです。情報をお待ちしています。

#### <実践投稿のヒント>

- 4月頃 出会いの演出・新学期の学級経営
- 5月頃 連休明けの学級経営のポイント
- 6月頃 室内でできる簡単イベント
- 7月頃 夏休み前の学級経営・1学期のまとめ
- 8月頃 子どもとのつながりを考える

- 9月頃 2学期スタートの学級経営・運動会と学級をつなぐ取組み
- 10月頃 意欲的に行事に取り組む手だて
- 11月頃 学級目標の見直し・音楽会と学級づくり
- 12月頃 お楽しみ会の在り方・年賀状と学級づくり
- 1月頃 新年の誓い・新たな気持ちを学級づくりに生かす
- 2月頃 文集づくり・6年生を送る会のシナリオ
- 3月頃 お別れ式の持ち方・先生の通知票

以下のアドレスまでよろしくお願ひします。

sugi-net@c-able.ne.jp

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（山口市立平川小）

津村元文（防府市立西浦小）

能勢雅子（山陽小野田市立高千帆小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小）

=====